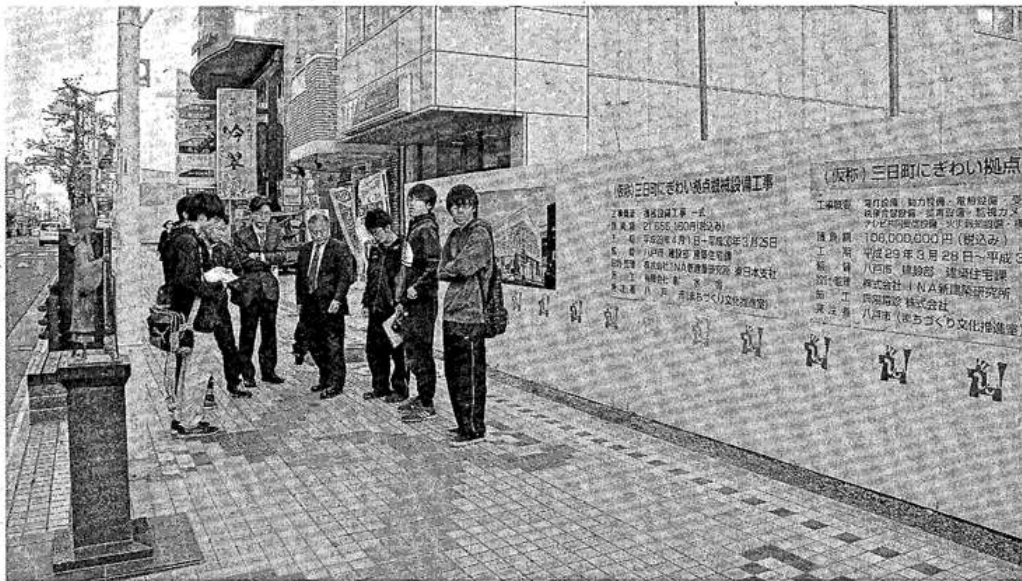


課題解決策 学生目線で

八工大生 中心市街地を調査



中心市街地の状況を調査する学生ら

具体的対策 市に提案へ

八戸

八戸工業大(長谷川明学長)の学生らが、八戸市中心市街地の課題解決に向けた取り組みを始めた。学生が街中に出て、車の交通量や歩道の欠損状況などを調査。来年1月末ごろまでに結論をまとめ、市に具体的な対策を提案する。(福田駿)

同大と市、第三セクター「まちづくり八戸」の3者は昨年度、中心街の課題解決に向けた連携協定を締結し、活動の一環として、「花小路」の整備案を模索していた。本年度は花小路に加え、中心街を走る国道340号の歩道整備案や、現在建設中の「マチニワ」とはっこの間を歩行者が安全に移動する方法など、計六つの課題に取り組み。

10月31日は、38人の学生が課題ごとに6班に分かれ、中心街を実際に歩いたり、建物を写真に収めたりして、現状を調べた。マチニワとはっこの間の移動について調べた土木建築工学科3年の山崎雅登さん(仮)は「実際に見てみると、思ったよりも車通りが多かった。採用してもらえないアイデアを提案したい」と話していた。